

論文審査の結果の要旨

平成 26 年 3 月 7 日

学位請求論文審査

執筆者 王岩

論文題目 『徒然草』研究—説話の受容と作品形成—

上記論文は、『徒然草』の説話的章段とされるものなかから、人物にまつわる話題をとりあげ、典拠や類話との比較、配列・連想契機といった点から多角的に読み解くことにより、そこに潜んでいる兼好の主張や思想について分析考察している。その結果として、兼好が中古・中世に盛行した説話文学の有りようを受け継ぎつつ、かつてない「随筆文学」なる新しい文学ジャンルを生み出したことを明らかにした。

また、先行研究によって提唱された二部説をふまえて、第一部と第二部にそれぞれに論証を行うことで、説話引用に方法的変化が認められることを指摘し、二部説を補強した。それと同時に、それが作者兼好の成長と連動しているのではないかという仮説を提示している。

上記のように、本論文は、1980年代半ばから飛躍的に進捗した説話研究の手法を援用したものといえる。従来、『徒然草』の説話的章段の存在や説話的性格といったことが指摘されながら、その実態を論証しようとした研究は少なく、説話的章段の意味や章段間の連想契機といったことは個別の指摘に止まっていた。本論文は、そうした点での新発見を含みながら、判明したことを総合し、『徒然草』全体における説話文学の受容とその超越を指摘している。

口述試験では、本論文の独自性、論文中に用いられた概念（「規範」「説話」など）の定義、今後の課題、テーマ発見の経緯について質疑応答がなされ、いずれについても十分な解答が得られた。特に、今後の課題として、今回の論証を作品全体に及ぼし、確実なものとする、相対化の作業として非説話的章段のありようの分析にも取り組むことなどがあげられ、それにより本論文が今後の発展性に富むことが確認できた。

以上、独自の問題意識、手堅い手法と表現力なども含めて、審査委員四名全員一致で博士の学位に相当する成果であると判定した。

主査（職・氏名） 人文科学研究科准教授 岡田美也子